

とことん向き合い、成長に寄り添うことに喜びを感じる

大阪産業大学は、就職支援に熱心な大学で全国14位、近畿の私大で1位にランクインしました。どんな取り組みが高評価につながったのでしょうか。キャリアセンター長の田中彰氏に話を聞きました。



大阪産業大学
経営学部商学科 教授
キャリアセンター長
田中彰博士（商学）

内定はゴールじゃない

私たちキャリアセンターの教職員は学生たちが内定を頂くことをゴールに置いていません。

親身になって学生の人生相談に乗ります。とことん向き合い、学生が本当にやりたいことを見つけるサポートをしています。その結果が就職支援に「熱心」だという評価につながったのではないかと思います。

現在、キャリアセンターには24人の教職員がおり、9人がキャリアアコンサルタントの有資格者です。全学科に専属の「学科担当者」を配置し、学生との面談も、1次面接のフォローをした担当者がそのまま2次面接も継続してサポートします。内定まで同じ担当者がサポートすることで、学生と本音で話せる仲を目指しています。卒業生は1800人ほどで、約1万0700件の面談をしています。

平均すると1人あたりの面談は約6回です。学生は、面談回数を重ねるごとに、働くことについての考えがまとまっています。担当者は、学生の個性を大事にしながら、どんな業界でどんな働き方をしたいかを一緒に考えます。

そうして、働くイメージまで考えを巡らすので、入社してからの

ミスマッチが少ないと思います。マッチ率が高いからこそ、活躍できる。その結果、対人力が近畿の私大で2位、獨創性は全国の私大で2位にランクインしたのだと思います。

学生のサポートには、企業からの情報を集約して、どんどん提供していくことも重要です。だから、企業との面談は断りません。どういう企業で、どういう方向性で、どういう人がほしいか、たくさんお話しします。ヒヤリングした情報はデータベースにまとめ、本学の学生向け活情報サイト「キャリアBOX」に掲載します。ただ、求人情報を貼り付けるだけではありません。マッチングを高めるのもキャリアセンターの仕事です。

今の学生は、わかっているのに、わかりませんと言うなど、意見を出すのを怖がる傾向にあります。それでも、思っていることを自分の言葉で表現できれば、いろんな世代とコミュニケーションがとれる。そのために、まずは様々な情報を自分で仕入れ、感じ取ることです。遠慮せず言葉にしてほしい。教職員も答えを与えるのではなく、サポートをして、答えは学生自身

に見つけてほしいと思っています。4年間を通じて、一人ひとりの個性を磨いていけばいいと思います。キャリアセンターは学生の未来を背負っています。だから前向きな話ばかりで、成長に寄り添えることに喜びを感じます。キャリアセンターの教職員の働きかけが、学生の何かのきっかけになったらうれしいです。

履歴書の添削や個別相談の実施件数は2022年4月1日～23年3月31日までに10,734件（オンライン式・対面式合計）でした。実践的な面接練習もサポートしています。

